

Concertino di Lyoto

No. 11

1970■

1月11日 (日) 7.00PM■  
京都： 大谷ホール  
主催 — 才能教育研究会 京都支部

1月18日 (日) 7.00PM■  
松本： 才能教育会館ホール  
主催 — 清韻会

京名物の一つか

京都に於けるコンチェルティーノ・デイ・キョートの存在は、われわれの羨やましいもの、一つになってきたようです。この絃楽団は、今や、日本に於ける、指折りのアマチュア弦楽団の一つであることを、こゝに公言してもよいと思います。井手先生を中心に、年年磨きをかけた熟練の賜物として、音色も冴え、音楽的表現も、又アンサンブルの美も、大いに成長してきたことを感じます。

楽しくも又大きな文化的意義を有する活動、皆さんの築きあげてゆかれるその努力に対し、心からの拍手をおくります。

日本の各地にこんなアンサンブルが続々と誕生する時代がやってきたならば、どんなにかうれしいことでしょう。

才能教育研究会会長

鈴木 一



メッセージ



ごあいさつ



### 青年期のコンチェルティノー

コンチェルティノー・デイ・キョートは、34年に小学生を主とした子供達の合奏団として誕生しました。それから十年、この合奏団も人でいえば青年期を迎えたこととなります。

青年期といえば、私が旧制中学生時代、図画の先生がいった痛烈な言葉を思い出します。「幼児の顔、これは無心の神に通ずる美しさがある。天使の顔はこれが基本になっている。それから美しいのは老人の顔。風雪に耐えた立派さと美しさがある。一番無細工で不調和なのはお前達の年頃の顔だ。ぐるっと丸を画いてその中に目と鼻をつけ、口だけを大きくかくとこの顔になる。何せ喰う事が先づ先に立つからなあ。ハッハッハ……」というわけです。

青年期という年代は、たしかに不調和、なまいき、騒々しい、という不安定な意味の言葉が当てはまる時代でしょう。しかし、ひたむきな情熱、正義感、研究心に満ちた生命力の最も旺盛な輝かしい年代だとも思います。

コンチェルティノー・デイ・キョートの演奏会が、子供のおさらい会だという時期は過ぎました。そして、いつかはやってくる白髪の時代には「これぞ芸術」という本当に立派な演奏が出来ることを期待するのですが、その為にもこの大切な時期に全身で求め、問いかけ、そして全力を尽して試みるべきだと思います。

十七世紀の合奏協奏曲（コンチェルト・グロッソ）では、合奏の、その他大勢をリピーエノ、選ばれた独奏者の一群をコンチェルティノーと呼びました。「小さな、子供達の、」という意味を含む発足当時つけられた「コンチェルティノー」という名称が、「独奏者の集り」という意味に変わり発展してゆくよう、一つの目標をもつ時期に入ったと思います。

演奏の不出来は一に指揮者の責に帰するわけですが、一指導者としての立場から、日頃思う団員諸君への期待を述べさせていたゞきました。こゝに一層の御叱正、御理解を御願ひする次第です。

井手章夫

### 新井覺・野村武二両先生の御紹介

新井先生はヴァイオリンの、野村先生はチェロの、共に才能教育研究会京都支部の指導者であります。コンチェルティノー・デイ・キョートは本支部の研究科卒業生による合奏科Aクラスの名前ですから、当然団員のヴァイオリンはすべて新井先生、チェロはすべて野村先生の許で育った生徒ということになります。

御承知のように才能教育研究会は、鈴木鎮一氏を会長とし、「どの子も育つ、育て方一つ」という理念に立って、正しい音楽教育を通じ、豊かな人間を育てる会であります。これが学校であれば、学則という拘束力を持ち出せますし、プロ養成機関であれば、それなりのはっきりした指導の鞭も持ち得るでしょうが、ただひたすらに前記の高邁な目的を見つめて、幼児時代から長年の積み重ねによって文字通り育ててゆくという事は、高い音楽に関する識見と共に、深い愛情が無ければ出来ることではありません。

コンチェルティノー・デイ・キョートがこの十年、着実な発展をして来たことは、鈴木会長の愛弟子である新井先生と、佐藤良雄氏の愛弟子である野村先生による、才能教育運動を支える確かで、しかも大きい業績だと思えます。

コンチェルティノーの毎土曜の練習は、私が定時制高校の勤務という時間的な制約の故に、その指導のほとんどが両先生によってなされていることや、楽器、楽譜等の細かいことの隅々まで、これまた両先生の行き届いた配慮と努力がなされていることもこゝで特に申しておかなければならないと思います。

コンチェルティノーをグランドピアノにたとえるならば、三本の足のうち、離れた後の一本は私。前の二本の高音側が新井先生、低音側が野村先生によってバランス良くしっかり支えられているとでもいえるでしょうか。演奏会に際し、こゝに心からの敬意をもって両先生の御紹介とする次第です。

井手章夫



指導者紹介



Programma

J. S. Bach ~ L. Stokovski  
Preludium in h moll

バッハ～ストコフスキー  
前奏曲 口短調

R. Volkmann  
Serenade Nr. 3 Opus 69  
(für Streichorchester und Violoncello)  
Solo Tetsu Yonehara

フォルクマン  
セレナード 第3番 作品69  
(チェロと弦楽のための)  
独奏 米原 徹

A. Vivaldi  
'L'Estro Armonico' n. 11 in re minore Opus 3-11  
Allegro—Adagio Spiccato—Allegro  
Adagio e Spiccato  
Allegro

ヴィヴァルティ  
調和の幻想より 第11番. 二短調 作品3—11  
アレグロ — アダジオ スピッカート — アレグロ  
アダージョ エ スピカート  
アレグロ

A. Vivaldi  
'LE QUÀTRO STAGIONI'  
'Il Cimento dell' Armonia e. dell Invenzione Opus 8-1~4  
LA PRIMAVERA in Mi maggiore  
Largo Allegro  
Allegro

ヴィヴァルティ  
和声と創意への試みより 四季 作品8—1~4  
春 ホ長調  
アレグロ  
ラルゴ  
アレグロ

L' Estate in sol minore  
Allegro non molt  
Adagio  
Presto  
maggiore

夏 ト短調  
アレグロ ノン モルト  
アダージョ  
プレスト

L' Autunno in Fa maggiore  
Allegro  
Adagio molt  
Allegro

秋 ヘ長調  
アレグロ  
アダージョ モルト  
アレグロ

L' Inverno in faminore  
Allegro non molt  
Largo  
Allegro  
Solo Wataru Higashida

冬 ヘ短調  
アレグロ ノン モルト  
ラルゴ  
アレグロ  
独奏 東田 渉

プログラム

## 曲目解説

J.S. Bach (1685~1750)



### 前奏曲 口短調

ヨハン・セバスチャン・バッハ  
(1685~1750)

大バッハが残した遺産のなかで、ピアノ曲の古典として2巻の平均率クラヴィア曲集が極めて重要な位置を占めていることは今さら言うまでもない。この曲は、その第1巻(1722年、ケーテン時代に作曲された)の最後に含まれる口短調の前奏曲を、名指揮者レオポルド・ストコフスキーが弦楽合奏のために編曲したものである。3声の曲で、終始ゆれ動く低音のピチカートの上に2本のやわらかな旋律がからみあって微妙な美しさを生みだしている。

### セレナード 第3番

フリードリッヒ・ローベルト・フォルクマン  
(1815~1883)

フォルクマンはドイツ・ロマン派に属する作曲家で、主としてブダペストに住み、交響曲や室内楽などかなり多くの作品をのこした。生前その作品はよく演奏され、メロディックな作風で親しまれたと云われるが、現在では演奏会の曲目にのぼるものは少い。

このセレナード第3番は独奏チェロと弦楽合奏のために書かれたもので、単一楽章の自由な形式をとっている。独奏の流麗な旋律にはじまり、自由な断片をはさみながらチェロの技巧を見せるが、ロマンチックな詩情があふれている。合奏を主体とした中間部のアレグロをへて再び冒頭の旋律が現われ、低音のオスティナートを伴って静かに曲を終る。

### 調和の幻想 第11番 二短調

アントニオ・ヴィヴァルディ(1675~1741)

ヴィヴァルディの数多い作品の中でも、この曲は傑作の一つにあげられている。2本のヴァイオリンとチェロを独奏部とする典型的な合奏協奏曲で、重厚な、むしろ教会協奏曲に近い気分を持っており、対位法的な手法が目立つ。なおバッハはこの曲をオルガン協奏曲に編曲している。第1楽章ではまず独奏がカノン風に登場したあと、短い経過部につづいて低音が奏する主題にもとづいた4声のフーガが充実した展開をみせる。第2楽章は1本の独奏バイオリンがのびやかに歌うシチリアーナである。第3楽章は独奏の自由な模倣にはじまるリトルネロ形式で、活発な楽章である。

### 協奏曲 四季

アントニオ・ヴィヴァルディ(1675~1741)

「和声と創意への試み」と名づけられた12曲から成る協奏曲集の第1番から第4番までが、あまりにも有名な「四季」である。いずれも、田園の風景を描いた作者不明のソネット(14行詩)によって作曲されたもので、楽譜にもその詩句が書き込まれ、曲はそれに忠実に従って進行する。以下にソネットの大意を記すことにしよう。

#### 第1番 春 ホ長調

春が来た。鳥は楽しい歌で春を迎え、泉はそよ風にやさしくさ、やく。黒雲が空を走り、稲妻と雷がおそ。嵐がやむと小鳥は再び歌いはじめ。——花の咲くうらかな牧場では木々の葉がそよぎ、牧人の犬の側に眠る——ニンフと牧童は輝かしい春の日に笛に合わせて楽しく踊る。

#### 第2番 夏 ト短調

やけつくような太陽の季節には人も家畜も疲れ、松も枯れる。カッコウが鳴き、山鳩やヒワも歌う。そよ風がさわやかに吹く。突然北風がおそい、にわか雨を降らせて牧童を困らせる——牧童は恐れと不安に疲れる。稲妻が走り、雷はとどろく。ハエが群をなしてとびまわる——あゝ、恐るべき雷と稲妻、それは麦の穂や作物を打ちおとす。

#### 第3番 秋 ヘ長調

村人たちは踊りと歌で豊作を祝い、酒を飲んでついに眠ってしまう——祭りのあとには秋の快さが人々を眠りにさそう——夜が明けると狩人たちは犬をつれて狩りに出る。けものは逃げ、狩人は追う。けものは傷つき、力つきてついに倒れる。

#### 第4番 冬 ヘ短調

冷たい雪にふるえ、恐ろしい寒風が吹くので、たえず足ぶみをする。あまりの寒さに歯がカタカタと鳴る——暖炉では人々が安らかに過ごしている。外は雨が降っている——氷の上を、ころばないようにそろそろ歩く。急いで歩くとたちまち滑ってころぶ。閉された扉を開いて外に出ると、南風も北風も一緒にあらそって吹いている。これが冬だ。冬にもこんな楽しみがある。



A. Vivaldi (1675~1741)



Concertino  
di  
Kyoto

(コンチェルティーノ・ディ・キョート 合奏団)



指揮  
井手章夫

独奏ヴァイオリン  
東田渉

第1ヴァイオリン  
東田渉  
松村裕美子  
水野敬子  
勝馬春美

ヴァイオラ  
仲佐悦子  
新井覚

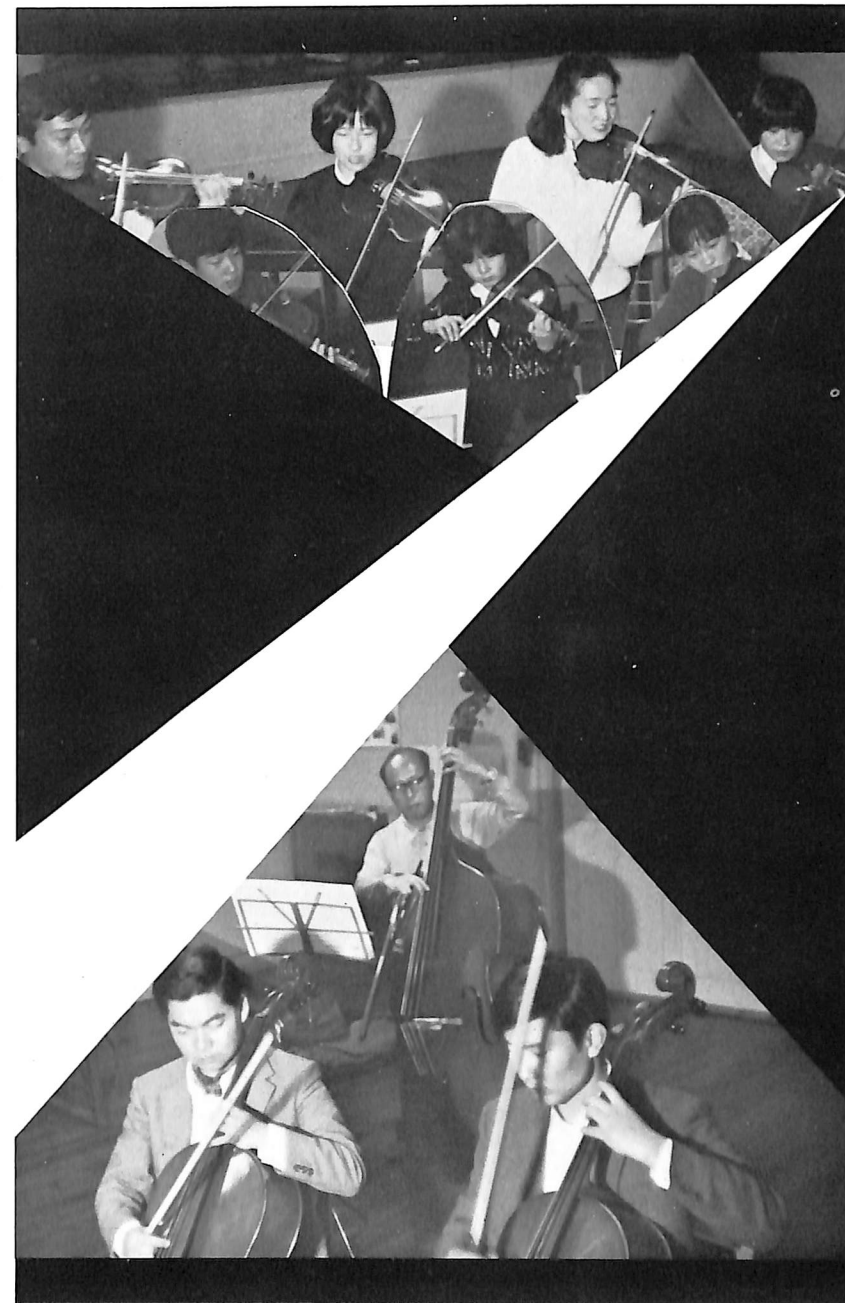
コントラバス  
森田昭

独奏チェロ  
米原徹

第2ヴァイオリン  
田中信介  
宇田美代子  
長尾まや子  
田原明子

チェロ  
米原徹  
壁瀬雅比古  
柳田耕治

チェンバロ  
鳴海温子



## 独奏者紹介

渉君を聴いて下さい。

幼い時から私と一緒に勉強して来た渉君も、今はもう20才を過ぎた大人です。未だ学生ですから、社会的には完全な大人ではありませんが、ヴァイオリンはもうずっと以前から大人になって居ます。

テクニックのみに流れ、音楽の心を忘れた職業演奏家の多い世の中で、音楽の勉強をすることによって自己を向上させようと努力して居るコンチェルティーノ・ディ・キョートのメンバーの中で最も優れた一人です。デリカシーに富んだ美しく力強い音と、豊かな感情をもった彼の演奏はとても魅力的なものです。

ヴィヴァルディの四季全曲の独奏をすることは、技術的、肉体的には、そんなに大変なこととは思いません、しかし精神的な苦しさがどれ程のものであるかは経験したものでなければわからないことです。3楽章づつ4曲、約一時間、彼は自分との戦ひに苦しむことでせう、しかしこの一時間が彼のこれからの人生にどれだけ寄与するか計り知れないものがあると思います。私は渉君がこれを克服して更に飛躍することを願って居ります。

新井 覚

米原 徹君のこと

米原君が私の教室に入って来たのは彼が小学校2年生の時でした。はじめの内は順調だったのですが、曲が複雑になってくるにつれてチェロをいやがる様になり、何度かやめたいと云って来たものです。私は当時この仕事を始めたばかりで経験不足であったため大変に悩まされたものでしたが、兎に角やめない様に、無理のない様にと考えてやって来ました。彼が中学2～3年の頃でしたか、自分の小遣でレコードを買って来てその曲の感想を私に述べてくれた時程大きな感動をおぼえた事はありません。あんなにいやがっていたチェロもそれからはぐんぐん上達して来ました。「誰れでも育つのだ、育て方ひとつだ」私は、この仕事に情熱を燃やしました。大学受験等で2年程のブランクはあったものの、今では壁瀬雅比古君と共に私の片腕となってくれる様になりました。多少理窟っぽい所はありますが、非常にデリケートで理性的な表現は全く彼の人間そのもので、勿論まだまだ人間的にもチェロの上でも多くを学ばねばなりません。13年昔を考えてみると御両親も御苦労の甲斐を喜んで戴いてよいと考えております。

野村 武二



## 音と電化製品の殿堂

80本のスピーカーからお好みの音が  
撰択出来る京都唯一のスピーカーシステム

# アサヒムセン

① F電化製品

② Fオーディオ・パーツ

中京区河原町三条上ル一筋目東入ル

TEL (231-4475 電化製品)  
(221-2334 サービス)  
(221-4212 オーディオ)

[取扱メーカー]

ナショナル・東芝・サンヨー・三菱・  
ソニー・ビクター・  
サンスイ・パイオニア・トリオ・ラックス・  
ティアック・その他外国製品

洋菓子の本当においしいのは

卵をたっぷりつかって 焼きたて 造りたてである事です

そんなケーキを真心こめてつくっております

# メーゾンマリア

たのしく、おいしいおみやげ(商品)を用意して  
おります

千本中立売下る西側 **マリア** 461-9814

京都市中京区錦小路通室町西入

内 科  
小 児 科  
レントゲン科

# 白数医院

医師 白数久兵衛  
電話 (221) 1280番



